

知っているようで意外と知らない日本文化。

日本を訪れる外国人が増える中、自分たちの国の文化に対する知識を掘り下げ、新たな楽しみを見つけてみませんか。

能

NOH

現代に伝わる世界最古の演劇と言われ、海外にも知られるようになって世界無形遺産にも指定されている「能」。初心者にはハードルが高い芸能と思われがちですが、ほんの少し知識があるだけで、驚くほど見方が変わります。能楽5流のうちの一つ、喜多流大島家5代目の大島輝久さんに、その楽しみ方を教えていただきました。

室町時代に確立された様式

「能」は現代まで継承された世界で最も古い演劇と言われています。「謡」という抑揚のついた詞でつづられた詩劇でもあり、能面をつけて演じられるという点では仮面劇でもあります。しかし、「能」と呼ばれるようになったのは明治維新以降のこと。江戸時代までは「猿楽」と呼ばれ、その源流は奈良時代頃までさかのぼります。

室町時代、それまであった様々な芸能を洗練させ、集大成したのが、観阿弥・世阿弥父子です。現代に伝わる能は約200曲ありますが、そのほとんどが室町時代につくられています。観阿弥は、それまで物まね芸が中心だった猿楽に、舞や謡の要素を巧みに取り入れ、芸術性を高めていきます。その子である世阿弥は大変な美少年で、3代将軍の足利義満の寵愛を受けて役者としての頂点を極め、能の様式の一つである「夢幻能」を確立しました。能には現在能と夢幻能とがあり、現在能は現在進行形で話が進み、夢幻能は霊的な存在が主人公となり、現実と夢が交差しながら話が進みます。

世阿弥は晩年、佐渡に流され、不遇のうちに生涯を閉じましたが、時代に翻弄されない真の芸を追求した人物と言えます。

喜多流 シテ方 能楽師 大島輝久さん

1976年広島県福山市生まれ。大島家5代目。祖父・久見、父・政允、塩津哲生に師事。3歳で仕舞「猩々」にて初舞台。東欧公演、台湾公演、北欧公演、ヨーロッパ公演などに参加。2010年より喜多流職分会に参画。14年、国総合認定重要無形文化財となる。喜多流の若手として国内外で活躍。



シンプルさを追求した芸能

能は長い歴史の中で徐々に洗練され、なるべく無駄なものを削ぎ落として伝えられてきた芸能で、江戸時代に生まれた歌舞伎のようなわかりやすい派手さはありません。装飾を削ぎ落として、シンプルさを追求した芸能だからこそ現代まで様式を変えることなく残ってきたのですが、それ故に、現代のような情報社会に育ってきた人々にとっては、わかりにくいと感じてしまうかもしれません。しかし能は、ほんの少し知識を身につけるだけでも、そこが入口となって驚くほど世界が広がります。

海外に行くと、外国の人々の能への関心の高さに驚かされます。世界に誇れる能の世界を、ぜひ日本人たちにも楽しんでもらいたいと思います。

能楽

の演者たち

能楽にはシテ方、ワキ方、狂言方、囃子方という4つの役があり、それぞれの専門分野の役のみを演じます。

シテ方

観世、宝生、金剛、^{こんばる}金春、喜多の五流があり、男女の霊や草木の精、神、鬼、妖怪などの役で登場し、役柄に沿った面をかけて舞を舞います。シテ方の役割としては、以下があります。

- ・シテ (主役)
- ・シテツレ (シテに連れられて登場する人物)
- ・子方 (子役のこと、多くはシテ方の家の子どもが演じる)
- ・地謡 (謡を斉唱するコーラスグループ。8人～10人で構成され、2列に並んで座る)
- ・後見 (舞台上で演者のサポートをする人物)

ワキ方

神職、僧侶、武士など現実に生きている男性の役が多く、面をかけることはありません。ワキ方の役割としては、以下があります。

- ・ワキ (シテの相手役)
- ・ワキツレ (ワキに連れられて登場する人物)

狂言方

笑いを主題とした演劇である狂言を演じる一方で、能の中ではアイ(間)と呼ばれる役を担当。シテが中入りで退場している間に、ゆかりの物語を語ります。

囃子方

笛、小鼓、大鼓、太鼓の4種類の楽器を、それぞれ担当します。囃子方に地謡を加えると、雛祭りの五人囃子になります。



亡霊となった清経が妻の夢に現れる「清経」は世阿弥の作品。シテ・大島輝久。(撮影・池上嘉治)



太鼓 専用の台に載せ、棒で棒を打って音を出す。太鼓が入る曲を「太鼓物」、入らないものは「大小物」と呼ぶ。

大鼓 小鼓と形は似るが、一回り大きい。演奏前に革を炭火で乾燥させ、調緒で強く締め上げるため、小鼓より硬質な音色。

小鼓 調緒と呼ばれる麻紐や革の調整で多様な音色が生まれる。演奏中の湿度の調節も重要となる楽器。

笛「能管」 とも呼ばれる横笛。原材料は長年にわたって燻された煤竹で、舞台上、唯一の旋律楽器。

写真©公益社団法人能楽協会



広島県福山市にある喜多流大島能楽堂舞台。1971年に改築された総檜造りの舞台。

能舞台を知る

能が演じられる能舞台は江戸時代に確立され、もともとは野外に建てられていました。舞台と客席が一つの建物内に収まる劇場形式の能楽堂が建てられるようになったのは、明治時代以降です。

演者の出入りに際し、二人の後見が竹竿を使って五色の幕を上げ下げする。

この世のものではない異界の人が、人間界へ入っていくための時空を飛び越える道。



もともと日本人は一年中色が変わらず寿命の長い松を永遠性の象徴として、また神の依代として大切にしてきた。松を舞台背景に描くことで舞台を神聖な場所とし、どんな季節の曲でも演じる事を可能としている。



囃子方や後見など、演劇的には見えていない人たちが座る場所。

地謡が座る場所。コーラスリーダーである地頭が座る位置は、観世、金剛、喜多流では後列左から2番目。宝生、金春流では後列右から2番目。

能面を付けたシテの視野は極度に狭まるため、演じる上で目標とする柱。

5つに分類される曲目

演目は配役の性格やテーマによって、大きく下記の5つに分類されます。また、下記以外に祝祭の儀式として上演される特別な演目「翁」があります。



美しい女性（前シテ・写真左）が鬼女（後シテ・写真右）へと変貌する「紅葉狩」はドラマチックな曲目で、歌舞伎の演目にもなっている。前シテ/後シテ・大島輝久。（撮影・池上嘉治）

神 各地の神話を基に八百万の神が現れ、太平の世を祝福する。（「高砂」「竹生島」「養老」など）

男 源平の武士や公達の霊が修羅道の苦しみを訴え弔いを求める。（「八島」「敦盛」「清経」など）

女 天女や古の貴婦人などを描く能の幽玄を代表する演目。（「羽衣」「井筒」「野宮」など）

狂 さらわれた子を探す親の哀しみなど普遍的人情を描く。（「隅田川」「三井寺」「木賊」など）

鬼 鬼や天狗など超人的存在が登場する活劇的な曲。（「土蜘蛛」「鞍馬天狗」「紅葉狩」など）

能の象徴、^{おもて}面

能面は「おもて」といわれ、つけることによって役柄が憑依する、能楽師にとってはとても重要なものです。種類は200以上あるといわれ、大別すると下記の6種類に分けられます。



翁面 お正月など特別な催しに演じられる「翁」という曲のみに使用。



尉面 老人を演じる際の面で、小尉、朝倉尉、三光尉、石王尉などがある。頭髪が植毛しているのが特徴。



男面 武将を現す平太や、中将、十六、童子、湯食など、身分や状況に応じて様々なバリエーションがある。



女面 若い女性を現す小面など、種類が豊富でポピュラーな面。年齢や性格などによって、小面、曲見、姥、老女など細分化されている。



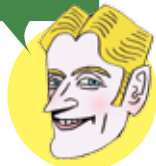
鬼神 鬼や天狗など超自然を現す面。力強く荒々しい表情が特徴で、大きく目を見開いた「飛出」、口を一字に引き締めている「癒見」、牙のある「鬚」などがある。



怨霊 この世に心残りがある、あの世から甦ってきた死霊を現す面。男の怨霊には「怪士」「瘦男」「河津」などが、女の怨霊には「般若」「山姥」「泥目」などがある。

Explain Noh in English!

能
ちょっとだけ
を英語で紹介!



Japan's Noh is one of the world's oldest dramatic performances dating back to six hundred years ago. The actor and playwright Zeami (c.1363-c.1443) developed its style in the Muromachi period (1336-1573).

能は600年の歴史がある世界最古の演劇です。室町時代に世阿弥が大成しました。

Noh plays can be categorized into two groups according to their subjects: *Genzai* (present) Noh and *Mugen* (dreamy and phantasmal) Noh. While *Genzai* Noh features humans and depicts events in the real world, *Mugen* Noh represents the supernatural world, featuring such characters as ghosts, demons and gods.

能は、現実世界の人々がテーマとなる「現在能」と、亡霊や鬼、神など現実世界では存在しないものがテーマとなる「夢幻能」とがあります。

Noh performances are accompanied by ensemble music called *hayashi*, which is played in the rhythm of an eight beat, similar to improvisational jazz music.

能の演奏は「お囃子」とよばれます。お囃子のリズムは8拍子で、即興的な要素もあり、ジャズと似ています。

In Noh plays, stories are told in *utai* recitation, in a form of chorus that is sung by a group of people called *jiutai*.

歌は「謡」と呼ばれます。「謡」を斉唱するコーラスグループを「地謡」といいます。